

おとうふ日和

おとうふは、どんな薬よりも勝るもの。

そのままよし、煮てもよし、焼いてもよし。本物の食はすぐそこにありました。

青森の「奇跡のりんご」を作ることのできた木村秋則さんのりんご畑を訪ねて

8月ですが青森の中村醸造さんのご縁で、りんごの畑を見て、夕食も一緒にさせて頂きました。畑で土と、りんごの木と、草と、自然と、造る人、が皆理解し合って農薬を使わない、化学肥料もいっさい使わない完全な自然栽培でのりんご造りの完成です。

農薬を使わないりんご造りを考えてから37年、4つあるりんご畑を全部自然栽培してから11年で完成にいたるまでを熱心に話してくれました。



なかでも11年間かけて完成された経過、すごいものがありました。

初めは地上を熱心に観察していましたが、答えは地下の部分にあったことなど経験上から語りかけるように解りやすく話してくれたことには感動いたしました。

●全部あるりんごの木から11年目に7個のりんごがなったことを、熱心に解りやすく、嬉しそうに話してくれたこと、今でも目に浮かびます。



写真が最初にりんごがついてくれたりんごの木です。

だいぶ古い木になっていますが木村さんにとっては、なんとも言えない、自然栽培の難しさ、奥の奥、中の中、大自然との対話のとれた最初りんごの木です。

●次の写真は病気にかかったりんごの葉っぱを手にとって、これは虫にくわれたのでなく病気になったものを周りに幕をはり自分でなおしてくれるとの説明



農薬を使ったり、化学肥料を使うと自分でなおす力が無くなり、頼ることになるのかなと感じました。

●娘と木村さんとの写真です、軽自動車に乗せてもらったり、すごい思い出になったと思います。

●場所がなく、多くのことをかけませんが豆腐造りにもすごく参考になる、木村さんの言葉

「隠れている真実を追求する者だけが、ものごとを成し遂げられるのです。

その過程で味わう桁外れの失敗、 噛み締めた挫折の量が成功のもとです。



見ることのできない地下部との格闘でかいた汗は、裏切ることなく地上部に現れます。

作物がうまく育たないとき、それを土のせいにはしません。ずっと前からそこに存在している土のほうが、突然来た作物を嫌がっている、わたしはそう考えます。」